

# 非核日本キャンペーン 高知県ニュース

2024年5月16日

発行 高知県原水爆対策協議会

高知市丸ノ内2-1-10 088-875-3917



## 6・9行動に取り組む高知県原水協常任理事会

5月9日には、「ひろめ市場前」で、日本政府に核兵器禁止条約への参加・批准を求める署名の呼びかけ、宣伝行動をおこないました。訴えに対して、署名に応じた方の中には、父親が戦死、叔父が戦死するという経験のある方もおり、自民党は戦死者の思いが分かっているのかと、平和を願う思いを語ってくれました。人の命を奪う核兵器には反対と話し、署名に応じてくれる方など、今、現実には戦争が行われていることもあって(ウクライナ、ガザ)、平和を願う気持ちが強くなっていることが伝わってくる宣伝行動となりました。

## 「ビキニデーin 高知2024(5月11日・12日) 述べ300名を超える参加者

第4回目となる高知のビキニデー集会は、1日目の全体会にはオンライン参加者を含め約200名が参加をしました。ビキニ水爆事件当時のマグロ漁船の状況を記録した映画「荒海に生きる」の上映と、元漁船員の証言は、いかに厳しい条件でマグロ漁がおこなわれていたかが実感するもので、それだけに「原爆マグロ」として、廃棄しなければならなかったことの口惜しさが伝わりました。シンポジウムは、学者、医師、弁護士が隠されてきたビキニ事件の実態を明らかにし、内部被ばくを証明するための物証の積み上げなどの研究に基づく報告と、中身の濃いものとなりました。3月1日に、マーシャルでおこなわれた「核被害デー」に参加した裁判の原告団長の報告は、核の被害者による連帯の大事さを伝えました。

二日目の分科会は3つに分かれて、「裁判の課題」「運動の課題」「教育の課題」について、全国の実践から学びあいました。

閉会集会では、水爆実験に遭遇した元漁船員の裁判への支援を求めると共に、来年の被爆80年(広島・長崎)に向けて、日本原水協の提起する「非核日本キャンペーン」に、積極的に取り組むことが呼びかけられました。そして、来年の5回目となる「集会」でも元気に会いましょうと締めくくられました。